

PROGRESS MEISEI

～持続可能な社会の創造者育成～

PROGRESS MEISEI とは

生徒の興味や関心は？
こだわっている事は？
不安や心配事は？
将来に向かうビジョンは？

リアルな生徒の興味や関心、なすべきこと、将来の夢等、各々の「問題」を体験（実地研修）、取材、調査等の実践的な活動により解決します。

この実感をもった問題解決過程により、「よそ事」のように感じていた現代社会の問題や自身のキャリア形成等を「自分ごと」として捉え、何ができるか、どうやるか、社会とどう関わるべきか等、「生き方」を考え得るはずです。

つまりこの活動は「持続可能な社会の形成者」としてどう生きるか、生徒自身が深く問うカリキュラムです。

この活動で

学ぶ意味・目標
将来のビジョン

・・・を培います。このことは、生徒のキャリア形成に効果的だと考えています。

PROGRESS MEISEI カリキュラム構成

Kick-Off	身の回りのリアルな問題、興味、すべきことを洗い出します。
Diversity	生徒が自身の問題を独自に解決します。
Relationship	先輩・先達・トップランナーに学ぶ活動です。多様な機関、人材、出来事に出会い、高次の問題解決を目指します。
Sustainable	見つけた解決策、決意した取り組みを継続して行い、妥当性を検証します。持続可能な取り組みであるか考えます。
Usually	実生活での解決策、取り組みの汎用性、実現性を体験的に検証し、日常化・他の取り組みへの範化を試みます。

Kick-Off① 対談「プロフェッショナル×SMGS」

生徒たちに、急に「あなたの課題は何ですか?」「どんなことを調べてみたいですか?」と問うても本当に解決すべき問題や自身の進むべき方向を熟考し、価値ある答えることはできないと考えます。

そこで、

生徒に身近なアパレル産業で活躍中の新進気鋭の経営者を講師として招聘し、その話の中から、日常の問題やチャンスの見つけ方、言い換えれば、ものの見方を見出すことができないかと考えました。

本当の Kick-Off 活動です。

概要と生徒の感想、学んだことをお知らせします。

「MADE IN JAPAN」にこだわるアントレプレナー 山田敏夫氏

熊本市内にある 100 年続く老舗婦人服店の息子として生まれ、幼少期より日本の良い洋服に囲まれて育つ。大学在学時フランスに留学しグッチで働いていた時、同僚に「日本には本物のブランドがない」と言われる。「ものづくりからしか一流のブランドは生まれえない!」という事を学び、ないのであれば自分が「日本のものづくりから世界一流ブランドを作る!」と宣言する。

自らの足で日本全国の工場を 700 以上周り、よいものづくりをしている工場と提携を結び、中間業者を介せず、工場と消費者をダイレクトに結びつけるという、アパレル業界の構造改革をおこす。



ファクトリエ代表取締役
山田敏夫氏

「なぜ、そんなに MADE IN JAPAN や工場にこだわるんですか?」

山田氏「日本には織や染めの伝統・歴史があり、いまも世界から高い技術が評価されている。しかし今の日本人はメイドインジャパンのものをほとんど着ていない。日本には世界に誇れる職人がいるにも関わらず、アパレル工場は環境変化やファストファッションの台頭により、日本の工場は不利な立場に置かれ、過剰な原価抑制を強いられ利益率が悪化し、倒産や人員削減が続き、国内におけるアパレル品国産比率は 1990 年の 50.1%から 2014 年には 3.0%まで減少した。このままでは世界に誇れる日本の技術の継承が途絶えてしまう状況もったいない。この状況を打破するために工場を元気にしたい。日本の腕のいい職人にこだわりの商品を妥協せずに作ってもらい、お客様にはこだわりぬいた本当にいいものを提供したい。作り手の想いが見えるストーリーに愛着が持てる商品・使い手を増やし、関わるすべての人たちの日々が豊かに幸せに暮らせる社会のもと、日本から世界一流ブランドをつくることを目指している。

「人生の目的って何ですか？」

山田氏「人生の目的は『幸せになること』そして、幸せは結果ではなく、挑戦の道中にある。チャレンジしている今、この瞬間にある」

- ・「夢を失わず、今を大事にしよう！」という言葉が胸に生きていきたい。今までの僕なら、こんなただの綺麗事でしょとしか思わなかったけれど、山田さんの話を聞いて、考え方がぐると180度変わった。夢を失わないで生きていくのは大変だ。途中で挫折や失敗をするかもしれないけれど「今」が一番大事なのだ自分に言い聞かせ、生きていけばあの時こうすればよかったなど後悔することは無いと思う。
- ・幸せというのは不幸になったときに気づくものなんだということをしみじみ感じる。では、それを知ったうえで私たちに何が出来るかということ、日常に感謝すること。「いつも通りつまらない1日」ではなくて「日常をありがとう」「日常謝謝」にする。何事も前向きに考えることが大切だと思う。

「どうしたら幸せになれるですか？」

山田氏「人と比較せず自分のやりたい事をやる。学歴や所得より『自己決定』が人生の幸福度を上げる」

- ・他の人に勝っているからもしくは劣っているからどうこうではなく、自分が正しいと思った事、自分がやりたい事を曲げずにやり続けたい。
- ・他人と比較しないで自分のやりたいことに挑戦したい。夢中になれる事を見つけて、それが生きがいになれるようにしたい。
- ・今まで私は人生において、「今の社会では学歴が良くないと生きていけない」とか「安定した収入が得られなる職業の方がいい」とか結果論でしか考えていなかったが、一番大事なのはそれが自分のやりたい事かだと気付かされた。自分の納得できる事をしてその上利益があったらなお良いが、いくら利益があっても自分のやりたい事を我慢したまま生活していたら窮屈な人生になってしまう。「何事も自分で決めたかに意味がある。他人の言いなりになっていたり、何となくで安定を選んでもそれは『自分の人生』ではない。」という山田さんの言葉から、私も自分の好きなこと、本当にやりたいことへの気持ちを押し殺さずにしていこうと思った。

「どうしたら挑戦できますか？」

山田氏「今の自分が立っているところから離れる勇気が必要。道はひとつじゃない。列車を降りる勇気を持つ。その為には、永遠の子どもでいる事。列車の窓から見ているだけでなく自ら動く。その行動を起こす燃料は『夢・志・想い』。そして、電車は行く場所を決めないとスタートできない。」

- ・みんながやっているからやるということではなく、自分が今何をやっていきたいのかを大切にしていこうと思いました。また、安定した生活が出来たとしても、他人から評価を気にせず、自分がやりたい道に歩いていくようにしたいと思いました。いろんな考え方や見方をしていき、いろんなことをしていきたいと思いました。後悔する前に自ら行動していくことをしていきたいと思いました。
- ・勇気をいつでも使えるように、力をもっと蓄えていきたい。
- ・本当に自分のやりたいことを追求する。今を今を必死に生きる。
- ・自分の今いる環境に満足して、「何も行動を起こさない」ということをしない。

- ・もしも目標、やりたい事が出来なくても、別の視点からまた考えればいいじゃないか！と過去の敗北に固執しすぎないで、また新しい道を歩いて行く勇気を待つ！
- ・目標は、夢は、常に持つておく。到着地点が決まったら、あとはそこに向かって全力で走るだけ！結果は必ずついてくる。夢はいつまでも追い続けよう。

「後々、後悔しない為には、どうすればいいですか？」

山田氏「後悔するのは、やったか、やらなかったか。失敗したから後悔する訳ではない。失敗の向こうに成功が続いている」

- ・挑戦した後の結果が大事なのではなく、自分がやりたいと思ったことを行動に起こす過程が大事なのだと思った。大人になってあの時一生懸命勉強しておけばよかったなと後悔しないように、今自分が置かれている環境を最大限に活かしていきたい。
- ・今までの私の中では二つに分かれた道が、失敗と成功どちらかの到着点に繋がっていて、成功ならそれで終わり、失敗なら新しく道を模索しながら進む、というイメージだったので、一続きで、成功も道の一部あるという考え方に見方が大きく変化した。
- ・常に今の自分に対して「果たしてそうする事で自分が後悔せず、自分の目的地を目指しているか」と自問自答し、一つ一つ物事に対して熟考していけば、自分の夢の道を歩けると思う。

対談後、高校生が今の社会に思うこと

「生産性や利益だけを追い求め続けて、何か大切なものを失っていないか？」

現在の日本ではメイドインジャパンの服のブランドはほとんどなく、代わりに中国の服にとって代われしまっている。日本人のひとりとして、自国の日本の服を着てみたいと思った。生産性や大きな利益だけを求めるならば中国のブランド、自国に対するプライドや誇りをもつなら、メイドインジャパンのブランドだ。日本人がメイドインジャパンの服を着ない事が、世界に誇るべき伝統ある日本固有のものを消滅させてしまうのではないか。

「本当の意味での豊かな世界を作りたい」

私たちが「安い物」を求める事で、発展途上国の自分より小さな子ども達が学校にも行けず働かされて、自分たちの服の原料となるコットンを栽培し、そこで使われる農薬によって、がんになり亡くなっている。発展途上国の労働者は生きていくだけの収入が得られず栄養失調により亡くなっている。そして、そこまでして作られたものが先進国では半分は処分されている。自分自身もこの事実を初めて知った。知らない事の恐ろしさを感じた。特に日本は流行が人々を左右し過ぎていてから廃棄物が多い。せっかく凄い技術が日本にはあるのだから、それを活用して「安い物をたくさん」ではなく、「質の良いお気に入り」の方が心にも余裕ができ、本当の意味での豊かな世界が作れるのではないか。